

経営比較分析表（平成28年度決算）

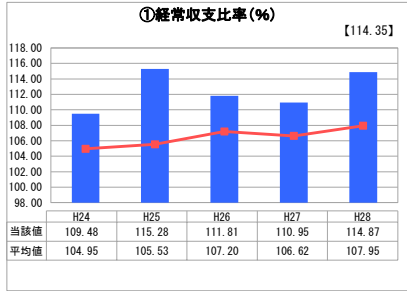
滋賀県 甲良町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)	
-	67.28	99.40	3,240	

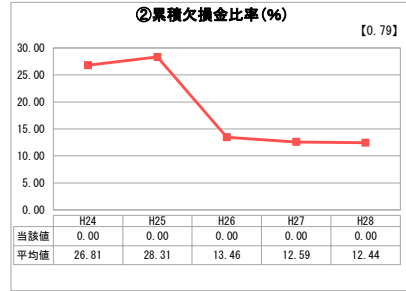
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
7,263	13.63	532.87
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
7,164	13.63	525.61

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

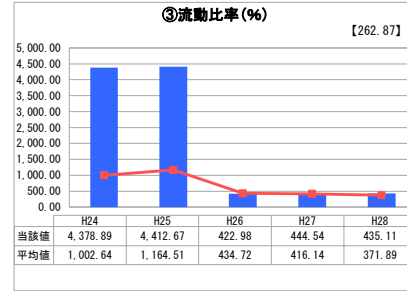
1. 経営の健全性・効率性



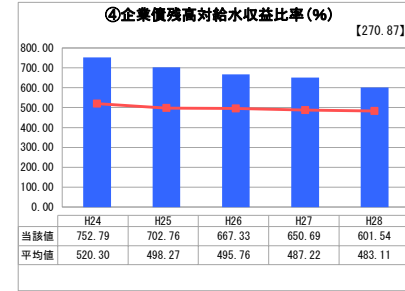
「経常損益」



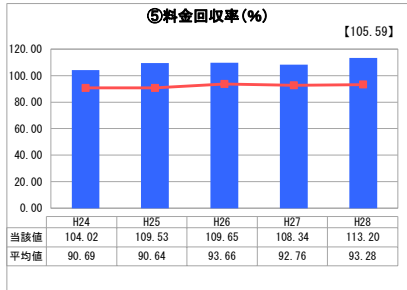
「累積欠損」



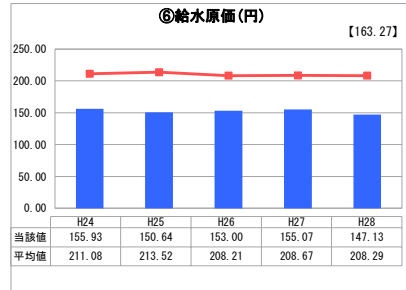
「支払能力」



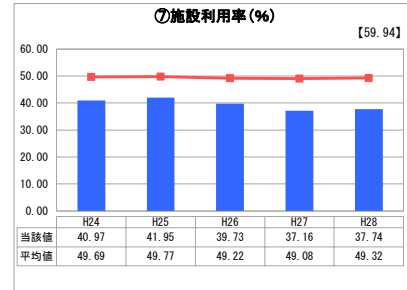
「債務残高」



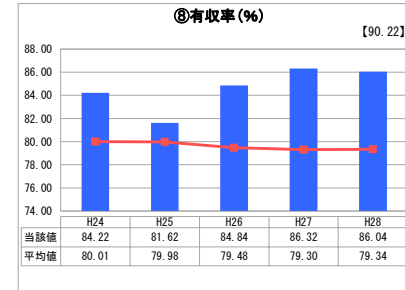
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

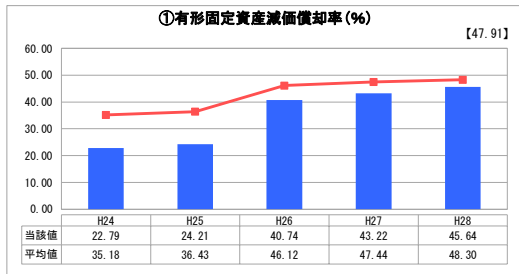


「施設の効率性」

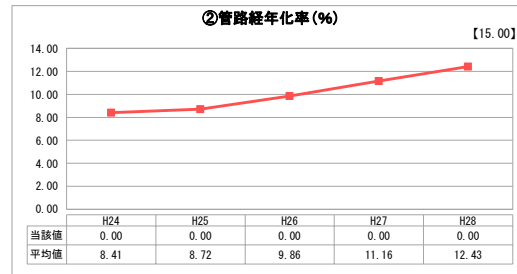


「供給した配水量の効率性」

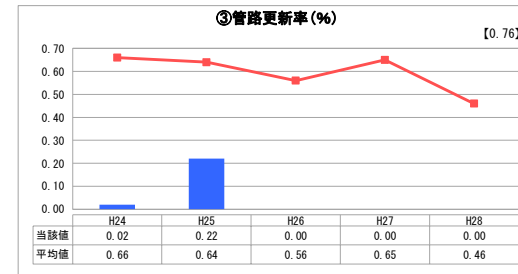
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
経常収益の経常費用に対する割合を示しています。平成23年～平成28年にかけて、100%を上回っており、収支は比較的良好であるといえます。

②累積欠損金比率
営業収益に対する累積欠損金の状況を表す指標です。平成23年～平成28年にかけて、0%であることから、全体的に健全な経営状況であるといえます。

③流動比率
短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。平成23年～平成28年にかけて、流動比率は低下傾向にあります。

④企業債残高対給水収益比率
給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。企業債は毎年返済してきていることから、年々改善傾向にあります。

⑤料金回収率
給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標です。100%を上回っていることから、概ね良好といえます。

⑥給水原価
有収水量1m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。平均値を下回っているため、類似団体より経営効率が良いといえます。

⑦施設利用率
施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。平成23年～平成28年にかけてほぼ一定水準を維持しており、類似団体と比較すると施設が遊休状態となっています。

⑧有収率
施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標です。平成23年～平成28年にかけて85%前後を推移していて、漏水調査等を継続し、向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。
甲良町水道事業では、平成22年～平成25年にかけては1%～2%ずつ上昇していましたが、平成26年度から会計基準の見直しに伴うみなし償却の廃止により、大幅に上昇しています。

②管路経年化率・③管路更新率
管路経年化率は法定耐用年数を越えた管路延長の割合を表す指標です。管路更新率は、当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標です。
甲良町水道事業では、管路経年化率は現状0%であり、問題は無いですが、将来の管路更新について、財政収支を考慮しつつ、費用の平準化を図りながら実施していきます。

全体総括

経営の効率性を表す指標である経常収支比率が100%を上回っており、収支は比較的良好であるといえます。しかし、今後の人口減少等により、給水収益の減収が予想されます。未収金対策を強化し、健全で持続可能な財政運営を図っていきます。
水道施設の老朽化については、アセットマネジメントの手法を取り入れ、優先度・重要度を考慮し、更新需要を見極めていきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。